2002 整備済車

〝クルマの安心〟日ごろの点検・整備から

9―10月は「マイカー点検全国キャンペーン」月間

自動車の性能が向上し、安全や環境対策も強化されているが、交通事故防止には自動車の日常の点検が不可欠であり、排出ガスによる環境汚染は定期的な点検・整備によって改善される面も大きい。毎年、九―十月は「マイカー点検全国キャンペーン」が展開されている。自動車の点検・整備の重要性について、社団法人東京都自動車整備振興会の塩沢優介会長に聞いた。

（社）東京都自動車整備振興会会長　塩沢　優介氏に聞く

トラブル防止・エコ対策　身近な整備工場の活用を

都内に五千二百の会員整備工場

――東京都自動車整備振興会の会員数はどのくらいですか。

塩沢　東京都内には約五千二百の会員事業所（整備工場）があり、自動車の点検・整備を行っています。それらは整備士、機械工具の点数、作業スペースなどについて法令が定める一定基準を満たした認証工場で、看板によって表示もされています。認証工場の整備主任者は年に一回、国の指導で研修を受けることになっています。

こうした認証工場で車検時に定期点検整備を実施したドライバーには、安心なクルマの証しとして「GOODマーク」ステッカーをお渡ししています。

少なくとも半年に一回は整備を

――自分で車検を受けるユーザー車検が増えています。車の保守・整備に自己責任と管理が求められる時代になりました。

塩沢　自動車は基本的には機械であり、手入れが大切です。使っているうちに摩耗損傷したり、時間とともに劣化する部品も使われています。

従って、最近の自動車は性能がよくて故障しないので購入して二、三年は点検しなくても大丈夫だ、ということでは安全は確保できません。また、車検を通ったから安心ということではなく、せめて半年に一回は愛車の整備をしっかり行っていただきたい、という点を強く訴えたいと思います。

また、環境問題への関心が高まって、ディーゼル車が出す黒煙（粒子状物質）や自動車排出ガスの対策が厳しくなっています。私たちの実施した調査ではエアクリーナーの清掃・交換で平均一四％の黒煙を減らすことができました。こうした効果も期待できますので環境面でも定期的な点検・整備は必要です。

整備工場は大気汚染などの環境対策で自動車ユーザーのお手伝いをする一環として、今年も九月十日から十一月三十日まで、都内整備工場の中でも約千の協力工場で、のぼりを立てて「ディーゼル車の黒煙の無料測定」を実施しています。

車のリサイクル業界に大きな役割

――使用済み自動車は年間、約五百万台に達しています。二〇〇四年末までには自動車リサイクル法の施行が見込まれています。一歩先んじて十月からは廃棄自動車のカーエアコンのフロン回収・破壊も行われますね。

塩沢　自動車リサイクルの仕組みのなかで、整備業は大きな役割を果たすと自認しています。業界としては勉強会を実施し、会員への周知徹底なども行って一生懸命にこの問題に取り組みたいと考えています。

リサイクル部品の再使用も活発になることが見込まれます。すでにユーザーの希望に応じて中古部品の交換、利用が円滑にいくよう会員の整備工場への部品あっせんなどにも取り組んでいます。

会員の研修を徹底　最先端技術に対応

――東京都自動車整備振興会は創立五十周年を迎え、今年五月には東京都自動車整備教育会館（東京都渋谷区）が完成しました。教育会館ではどんな事業を行っていますか。

塩沢　一番の目的は会員の技術を高めることです。自動車の技術が大きく発展し、変化していますので、整備事業者も最先端の技術に常に対応できるような体制を整え、技術力でお客様の期待に応えることが求められています。教育会館は座学の教室と実習場で構成し、常に勉強会を開催しています。

実習場では車検場の検査機器をそっくり装備し、車検の内容を学ぶことができます。また、最先端の設備を導入しており、例えばシャシーダイナモ・テスターは、車を設備の上に置いて時速二百キロ近いスピードで走行させハンドルのガタを見つけるといった車のチェックを行います。

小規模な整備業者が高価な設備をすべて独力で導入しなくても、教育会館のバックアップ体制によって最先端技術・設備に直接、接することができるというわけです。整備工場は街でホームドクターの役割を果たし、教育会館でさらに専門的なことを学んで知識や技能を現場に持ち帰ります。

安心できる社会へ整備を通じ貢献

――今年五月の会長就任ですが、抱負を。

塩沢　自動車整備士は、自動車の日ごろの点検がいかに大切かを熟知しています。これからの東京都自動車整備振興会の役割は整備工場だけでなく自動車のユーザー、さらに広く国民の皆様に目を向けて、自動車の整備を通じて安心な社会づくりに、お手伝いをしていきたいと考えています。

これまでは整備工場を対象に研修や講習を中心に実施してきました。今後は教育会館の近隣住民の皆さんや子供たちにいろいろな勉強や体験学習などの場として教育会館を活用してもらい、またユーザー向けのPRの機能を果たしていくようにしたいなどと構想を練っているところです。

広告

企画・制作＝日本経済新聞社広告局